

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2013年7月1日(月)

地域企業紹介 その 25

株式会社コバヤシ精密工業

無限の夢を追いかける

株式会社コバヤシ精密工業の小林昌純社長を相模原市中央区大野台の工業団地「Sia神奈川」にある本社工場に訪ねました。41歳、若々しい青年社長です。同社は父親の小林一正氏が1980年に相模原市田名で開業した精密機械部品加工の会社。事業の拡大と共に相模原市や町田市に点在した複数の事業所を2009年に「Sia神奈川」に集約移転させている。

小林社長は長男で子どもの時から漠然と「父親の跡を継ぐ」と思っていたそうだが父親から「好きな道へ進め」と勧められたこともあり大学は建築学科に進学する。大学時代にはカンボジアを訪れ日本の大林組が作ったメコン川にかかる巨大な橋が現地の人々にとっても感謝されているのを知り、建築や土木という仕事のやりがいや面白さを実感したそうだ。

一方、小林さんは子どもの頃から英語が好きでパイロットにあこがれていた。高校生の時には東京都とニューヨークの交換留学生として2週間ニューヨークブルックリンでのホームステイという貴重な経験をしている。そして、パイロットへの憧れも断ち切れず日本航空をはじめ国内の全エアラインを受験するも夢かなわず、卒業後は中堅ゼネコンに就職する。

就職したゼネコンでは「体も心も頑丈だった」ので常に過酷な現場に配属され、現場監督として8年間寝食を忘れて働きに働いたそうだ。睡眠時間が2、3時間ということも珍しくなかったという。30才手前で仕事にも慣れ、将来のことを考え始め「もやもやした気持ち」になっていた時、父親から「戻ってこないか」という話があり、退社を決意する。

結婚して2年目だったこともあり奥さんには反対されたそうだが、長男の責任感と経営者である父親への憧れのようなものが背中を押したのだろう。2002年に退職し、1年間カナダのバンクーバーを拠点に語学、スキー、大リーグ観戦、カジノと思っきり羽を伸ばしたそうだ。

(2面につづく)

株式会社コバヤシ精密工業

代表取締役 小林 昌純

所在地：相模原市南区大野台4丁目1番54号

従業員数：17名 資本金：1,000万円

事業内容：研究機関向け試作加工、産業用ロボット向け精密部品加工、各種検査装置移動台の加工、組み立て鉄・非鉄・樹脂・難削材の精密部品加工、3D加工、複合加工

2003年に帰国し、コバヤシ精密に入社、現場の1工員として必至に勉強し、1年後には社内一の稼ぎ頭に。そして、取締役、専務取締役を経て、2011年に代表取締役社長となる。同社は高い技術力を背景に大手の優良な顧客にも恵まれて順調に成長し、ピーク時で売上約4億円、利益は8000万円と高収益企業だった。しかし、リーマンショック後は顧客の厳しいコスト削減志向や製造業の海外移転などにより厳しい経営環境下にあり、そんな状況下で社長のバトンが渡された。

そんな中、同社が生き残りをかけて取り組んでいることが3つ。一つ目は徹底した製造コストの削減。中国、韓国にも負けないコストを実現するため、徹底した自動化と量産技術の確立に取り組んでいる。米国でも製造業復活のキーはロボットを使った徹底した自動化と言われているが、コバヤシ精密はすでにロボットの導入などに取組み中国、韓国に負けないコスト構造を実現している。

二つ目は念願だったベトナム進出。ベトナムへの進出に向け、数

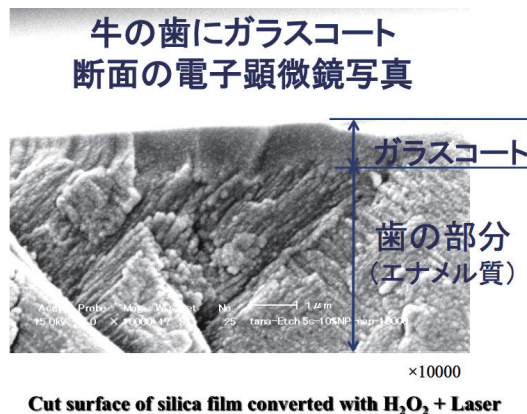
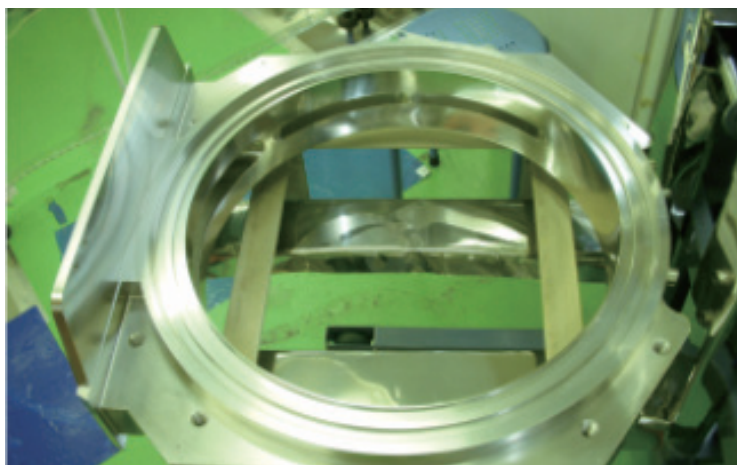
年間、試行錯誤してきたが勉強会で知り合った川崎市の企業に相乗りする形でハノイ工場を立上げ、間もなく操業開始の予定だという。小林一正会長自ら責任者として赴任している。今後はベトナムを皮切りにヨーロッパへの進出も考えている。小林社長は「日本で長年培ってきた緻密な加工技術は世界でかならず通用するはず」と語る。

三つ目が自社製品の開発。部品加工は受身の仕事。大手企業からの下請け的な仕事だけではなく自社ブランドを持つことは中小企業がこれから生き残っていくためには不可欠なことだ。

最後に小林さんに夢を語ってもらった。それは航空機産業への参入。高度で精密なスペックが要求される航空機製造の分野では今、日本企業は欠かせないプレーヤーになっている。コバヤシ精密工業の技術力なら不可能ではない。是非、実現してほしい。パイロットに憧れていた小林さんにとっては是非とも実現したいキラキラした夢なのだろう。

シリカガラスコーティング(表面改質処理)を医療分野へ

有限会社 コンタミネーション・コントロール・サービス



有限会社 コンタミネーション・コントロール・サービス(代表取締役 進藤豊彦氏)は、2000年1月、相模原市緑区下九沢で設立し、世界初のシリカガラスコーティングの開発に成功した。コンタミネーション・コントロールとは、不純物の付着・混入がないように管理すること。

同社は、ウェハ・半導体製造プロセスにおいて、ステンレスからの金属汚染問題の対策として長年研究してきたハード(表面処理技術)とソフトにより顧客の要求に

《シリカガラスコーティング》

腐食や汚染を防ぐための高純度シリカガラスコーティング処理を行うことで、基

材の特徴を活かし、表面のみシリカガラスの性質が得られる。

《Super Passivation Process:SPP処理》
ステンレス自体の耐食性を徹底的に追及した不動態被膜を形成。一般的なステンレスでも耐食性が飛躍的に向上し、配管内面やバルブ、マスフローなどのパーツ内面、チャンバーやフランジなど形状を問わず処理を施すことができる。

《金属汚染低減サービス》

各種表面処理とソフトを組み合わせ、金属汚染を低減させる。などである。

進藤社長は新事業として、ウェハ・半導体製造プロセスから一般産業や医療分野への展開を目指している。特に、シリカガラスコートは、人の歯へのコーティングと人工骨への応用が可能な特許を既に取得し、大学と研究を進めている。具体的には、「汚れない・虫歯にならない・磨り減らない」一生自分の歯で食事ができる人の歯へのガラスコートなど、実用化を目標に50年後の医療を見据えている。

有限会社 コンタミネーション・
コントロール・サービス
SIC-3 3306
TEL: 042-764-3725 FAX:042-764-3726

さがみはら産業創造センター（SIC）の歴史



さがみはら産業創造センター 副部長 稲垣 英孝

「SIC1号館誕生」

1998年4月の人事異動で人生の転機に出会いました。それは、相模原市産業振興課への人事異動で産学共同研究開発支援施設整備の業務を言い渡されたことです。この施設整備プロジェクトは、山本副主幹（現SIC専務取締役）がプロジェクトリーダー、小侯主任（現㈱クリエイト代表取締役）が支援事業の企画、そして私が施設建設の担当でした。

配属後直ぐに山本副主幹、小侯主任の両名が準備していた地域若手経営者の検討会に参加しました。そこでは、施設の是非を問う会議が行われており「箱もの行政はやめて欲しい」、「産業界が使いやすい施設を」などの意見が交わされる中、その言葉を聞きました。「施設をつくるならばそのお金を研究開発資金として市内中小企業に配布したほうが良い。」その言葉に、市職員として11年間の自分の考えの甘さに気づきました。

ある経営者が言いました。「施設をつくるならば、われわれ企業人が経営陣として参加でき、事業スピード、市場性ある事業展開を行える株式会社を採用すべきである。」私は、これが株式会社さがみはら産業創造センターの始まりであると思っています。

施設整備に対して、様々な意見がありましたが、相模原の産業活性化を図りたいとの地元経営者と行政の思いが一つになり、整備が進められました。SICの経営ビジョン「私たちは、この相模原の大地に 新しい風を起こし 産業の息吹を育み 新しいビジネスの創造を目指します」には、当時のSICを支えてくれた人々の思いに応える誓いが込められています。

当初3年間で予定していた施設建設も1年間で完成を目指すこととなり、地元経営者と行政で構成された役員会で次々と会社の重要事項が決定されました。その中でSIC1号館の設計は2ヶ月半で完成しています。

この限られた期間の中、担当役員であった江越取締役（元地域振興整備公団）、権田取締役（権田金属工業株式会社）、設計会社、事務方で構成された施設検討会ではローコスト、パフォーマンス、スピードを重視し、決めた方針が「機能を絞る。迷ったら採用しない。」でした。このことが、後に年間400人を超える視察者から「無駄を削り取った骨太のインキュベーションセンター」と絶賛される結果を生んだと思います。

設計、工事が進む中、入居企業の応募を始め、多くの経営者が面談に訪れました。「私をSICに入れないとSICは最大の損失になる」と話をされた経営者を今も鮮明に覚えています。入居希望者全員が事業拡大に向けた熱い情熱を持っていました。

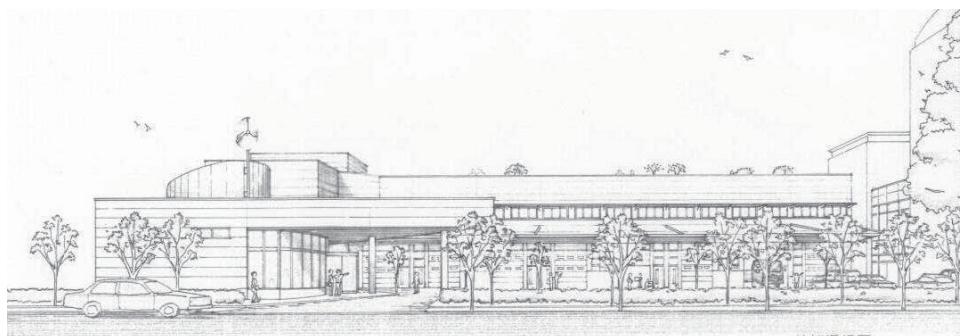
オープン間もなくの数年、SICは365日24時間、電気が消えることがありませんでした。安藤IM（現チーフインキュベーションマネージャー）とともに夜遅くまで1号館で仕

事をしていると、入居企業の皆さんが入れ替わりでオープンなカウンター越しに声をかけてくれました。仕事の話、家族の話、趣味の話などをしたことが懐かしく思い出される。「事務は、いま一つ進まなかったけれど、今日も入居者の方と楽しい時間を過ごせた。」と、夜遅く交わした安藤IMとの会話が今も忘れない創業の思い出です。

企業の成長支援を通じ、SICも共に成長できると信じ、「できることをしよう。やれることに挑戦しよう。何かできるはず。」と生まれただばかりのSICでスタッフ一丸となり積み上げてきました。

「SICを卒業し、大きく成長した企業が、次の企業を育てる仕組みをつくりたい。」SIC創業から10年経ち、SICの卒業企業が株主に加わりました。SIC1号館に植えた果樹が実を結んだことを実感しました。

SICは、創業から14年、経験を積み重ねてきました。新しい風も吹き始め、SICはさらに成長を目指しますが、いつまでも、この原点を忘れてはならないと思います。



外観透視図

提供：創夢設計

⑤ とってもとっても ちいさな旅

ホソバタブの枝を見に行こう！

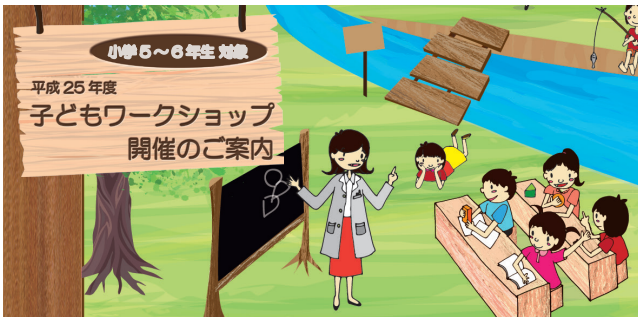
旧城山町の長い参道がある川尻八幡宮（かわしりはちまんぐう）は、古代より鎮守の森とともにあり、境内には、450年を超える「スダジイ」や「ホソバタブ」、など、大きくて古い木が何本もあります。写真では伝えられない森の雰囲気（特に「ホソバタブ」の森の枝々）は、是非、行って見て感じてほしい。また、御神木のスダジイは500年を超える幹は朽ちかけていますが、立派な注連縄を巻いています。鎌倉の鶴ヶ丘八幡宮の強風で倒れた大銀杏の注連縄もここ川尻八幡宮の氏子たちが作っていたそうです。そして、平安時代の石室（古墳）が昭和に入って発見されています。まだまだ話はつきません。



鳥居の近くのスダジイ 御神木のスダジイと注連縄 古墳（8世紀頃の石室）

川尻八幡宮

ホソバタブの枝々



子どもワークショップ

親子で「ものづくり」を体験してみませんか。子ども達の“なぜ？”を刺激し、相模原の社長さんのご指導のもと、親子で力を合わせ作り上げていただきます。

- 第1回 7月27日(土) おやこでつくろう！カードケース&チャーム
- 第2回 8月24日(土) 音のセンサーで走る！オリジナルマイカー
- 第3回 9月14日(土) 日本一のヘアゴム工場！ミサンガ&ストラップ
- 第4回 10月12日(土) 音のふしぎを体感しよう！マイスピーカー

詳しくは、SICホームページをご覧ください。



協創プロジェクト

眠っている商品化のアイデア、企業間連携で実現させませんか？本プロジェクトの説明、新製品、新事業のアイデア説明、意見交換、企業各社の交流を行います。

日時：平成25年8月6日(火) 15:45～
会場：ユニコムプラザさがみはら セミナールーム

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

2013.6- SIC EVENT CALENDER イベントカレンダー

- 7月9日(火) 第26回南西フォーラム
- 7月19日(金) 燃料電池研究会第1回全体会議
- 7月27日(土)、8月24日(土)、9月14日(土)、10月12日(土) 子どもワークショップ
- 8月14日(水)、16日(金)～18日(日) 2013子どもアントレ開催

入居企業を募集しています。

SIC 空室情報 (7月1日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料：共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	セミラボA (47.3㎡)	1	134,295円
	スモールオフィスA (23.6㎡)	2	78,750円
	スモールオフィスB (17.3㎡)	1	61,320円
SIC-2	セミラボ (50.2㎡)	1	164,850円
SIC-3	現在、空き室はありません		

SIC-1 ★スモールオフィスA (23.6㎡)2部屋 平成25年7月中旬より入居可



第26回南西フォーラム

「ロボット関連産業への参入機会を考える」

神奈川県では、本年2月にさがみ縦貫道路を中心とした地域を対象に、地域活性化総合特区「さがみロボット産業特区」の指定を受け、取組を進めています。

今回のフォーラムでは、ロボット業界全体の動向や地域企業・大学等での取り組みの事例を紹介することで、今後のビジネス展開を考えていきます。

日時：平成25年7月9日(火) 16:00～19:45

場所：サン・エールさがみはら

1. さがみロボット産業特区について
 2. 次世代ロボットの研究開発動向について
 3. 建設機械を基軸にしたロボット関連製品開発の実例
 4. 大学等でのロボット関連研究のご紹介
- 講演終了後、交流会・名刺交換会を行います。

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

SIC事業の報告

【SIC経営塾】

「会社の将来のために、何が 필요한か」を学ぶSIC経営塾は、今年度も6月15日(土)、12社13名の塾生を迎えて開塾いたしました。

【さがみはら子どもアントレプレナー体験事業】

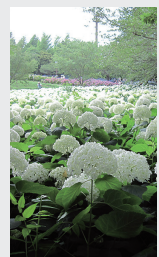
今年も子ども達の熱い夏がやってまいります。6月1日～12日まで募集いたしました「子どもアントレ」には、254名のご応募をいただきました。抽選で小学5年生と6年生48名の参加が決定いたしました。2泊3日の合宿を含む

4日間の活動を経て、8月18日(日)に子ども達手作りの品を販売いたします。場所は、相模大野「ポーノさがみおの」。是非、応援に来てください！

※今号に相模原市青年起業家育成基金への寄付金募集のチラシを同封いたします。本「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」は、同基金と地域企業や個人の皆様からの寄付によって支えられています。よろしくお願いいたします。

編集後記

相模原市の花「あじさい」が満開です。市立相模原北公園は、2006年にアジサイ名所東日本2位にランキングされ、和・洋種あわせて200種・10,000株のアジサイが植えられています。アジサイの前は、バラの花が満開でした。雑木林を利用した公園です。行くたびに季節の顔を見せてくれます。近くに行かれた際は、どうぞ立ち寄ってみてください。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話：042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>